

早稲田社会学会ニュース

第61号

2023年 4月27日発行

早稲田社会学会事務
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部 社会学研究室内
Tel: 03-5286-3742
E-mail: socio-office@list.waseda.jp
URL : <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

今回のニュースの内容

1. 第75回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ
2. 本年度大会シンポジウムについて
3. 大会一般報告の募集
4. 『社会学年誌』第65号投稿の募集
5. 2023年度研究助成の募集
6. 第44回早稲田社会学会研究例会のお知らせ
7. 入退会者のお知らせ
8. 学会費納入のお願い
9. 事務局よりお願い

1. 第75回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ

本年度の早稲田社会学会大会および総会は、2023年7月8日（土）に開催されます。開催方法は、現在調整中です。戸山キャンパスにて対面での開催を検討していますが、諸状況によりオンライン開催とすることもあるかもしれません。決まり次第、学会メーリングリストにてお知らせいたします。

シンポジウムのテーマは「「社会」の中の「人工知能（AI）」を考える——「人間以外」と向き合う視点の構築に向けて」です。詳細につきましては、「本年度大会シンポジウムについて」をご参照ください。一般報告などを含むプログラムの詳細につきましては、学会ウェブサイト上にてお知らせする予定です。ご参加方法等、詳細につきましては、追ってご連絡いたします。

事務局では大会での一般報告を募集いたします。報告を希望される方は、「大会一般報告の募集」をご参照のうえ、事務局までお申込みください。

2. 本年度大会シンポジウムについて

日時：2023年7月8日（土） 13:30－17:00

会場：調整中（オンライン開催の場合あり）

申込：6月初旬より学会ウェブサイトにて受付開始予定

テーマ：「社会」の中の「人工知能（AI）」を考える——「人間以外」と向き合う視点の構築に向けて

(以下敬称略)

報告者：高艸賢（千葉大学）・清家久美（立命館アジア太平洋大学）・栗原亘（高千穂大学）

コメンテーター：ドミニク・チェン（早稲田大学）・竹中均（早稲田大学）

司会者：大貫拳学（佛教大学）・栗原亘（高千穂大学）

趣旨説明

AIやその関連技術（AIを可能にする技術から、AIによって可能になる技術を含む）は、今日、めざましい勢いで開発・導入が進んでおり、今後さらにこの傾向は強まっていくと予想されている。そして、これによってもたらされうる影響については、現在、多様な議論が提起されている。

まず、AI関連技術のポジティブな影響を強調する議論がある。たとえば、先進諸国内では、人口減少にともなう労働力不足を補うものとしてAI関連技術の導入が待望されている面もある。また、AI技術は、いわゆるモノのインターネット（IoT）などと呼ばれる他の先端技術と組み合わせられることで、多様なプロセスの効率化を進め、「エコ」で「持続可能な」社会の実現につながるという見解も提起されてきている。スマートシティ構想などは、以上の利点を強調するナラティブの一部といえる。

他方で、AI関連技術は、人間の技能や知の質の劣化や、雇用の破壊による失業の拡大、また技術を開発ないし利用するテック系企業や政府などへの過度の権力集中などを生じさせうるとして問題視する議論も数多く存在している。AI技術を用いたオートメーション化は、肉体労働どころか、知的労働をも人間から取り上げうるし、さらにそれどころか、軍事の分野における「労働」の置き換えをも促進し、「殺人のオートメーション化」を進行させるという観点から、倫理的なレベルでの懸念が提起されるなどもしている。

また、以上のような影響の「種類」についての議論だけではなく、そもそも影響の「度合い」がどれくらいになるのかという点に関してもさまざまな議論がある。「いまだかつてない変化をもたらす」というタイプの予測をおこなっているものから、「これまでの技術革新の一変種に過ぎない」というタイプの見方をするものまで、合意はまだ得られていない状態にある。

以上のように、AI関連技術をめぐる言説は混沌としているのが現状といえる。こうした状況を踏まえ、研究例会・シンポジウムでは、AI関連技術を人文・社会科学的な観点からどのように捉えていくべきなのか、それらがもたらすであろう「現実（リアリティ）」の在り方への影響をどのようにして把握し、どのように向き合っていくべきなのか等々について、具体的な現状を踏まえつつ、改めて理論的なレベルから多角的に整理・検討する。多様な理論的バックグラウンドを有する論者たちによる討論、意見交換を促進し、いわば新たな社会のメンバーとなりつつあるといえるAIと、どのように向き合っていくべきなのかについて、一定の指針を作り出すことを最終的な目標としたい。（文責：栗原亘）

3. 大会一般報告の募集

大会午前中(10:00-12:00予定)の一般報告を希望される方は、以下の項目を明記の上、事務局宛にE-mailにてお申し込みください。その際の件名は「大会一般報告申し込み」としてください。

必要事項

(1) 氏名

- (2) 所属
- (3) 連絡先(郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス)
- (4) 題目(副題を別として25字程度まで)
- (5) 内容概略(200～400字程度)

送付先: socio-office@list.waseda.jp

締切: 2023年5月15日(月)12:00AM

※ 『社会学年誌』投稿とは締切日が異なりますので、ご注意ください。

現在早稲田社会学会会員ではない方で、報告を希望される場合は、上記の必要事項とあわせて入会申込書をご提出ください（なお、本年度についてはPDF等のかたちでE-mailにてご提出ください。当面、推薦人の署名捺印は不要とします）。入会申込の手続および申込書フォーマットの入手につきましては、学会ウェブサイトの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

4. 『社会学年誌』第65号投稿の募集

本年度の『社会学年誌』に投稿を申し込む方は、以下の項目を事務局宛にE-mailにてお送りください。件名を「『社会学年誌』投稿申込」としてください。

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス
- (4) 題目（副題を別として25字程度まで）
- (5) 内容概略（200～400字程度）

『社会学年誌』投稿申込締切は、6月30日（金）23:59です。『社会学年誌』原稿の提出締切は、8月末日です（なお本年度に関しても、昨年度と同様に紙媒体の原稿の郵送は不要です。上記事務局のE-mailに添付ファイルとしてお送り下さい）。申込書提出後の題目、内容の大幅な変更は認められませんのでご注意ください。また、申込後に投稿を辞退される場合は、8月15日までにその旨を必ずご連絡ください。なお、分量、書式その他、投稿規定については、『社会学年誌』の最新号をご参照ください。現在早稲田社会学会会員でない方で投稿をご希望の方は、上記の申込とあわせて入会申込書をお送りください（なお、本年度についてはPDFなどの形でE-mailにてご提出下さい。当面、推薦人の署名捺印は不要とします）。入会申込の手続きまたは申込書の入手方法につきましては、学会HPの「入会案内」をご覧ください。事務局までE-mailでお問い合わせください。

5. 2023年度研究助成の募集

これまで当学会に寄せられた寄付金により、寄付者のご意思を尊重し、研究活動の助成を行ってきました。この制度を継続し、今年度も次のように、会員各位の研究活動を助成いたします。

- ・助成対象:早稲田社会学会の発展に寄与する研究活動
- ・助成額: 1件15万円程度を上限とする

助成を希望される方は事務局までE-mailでご連絡ください。件名を、「研究助成申請希望」として下さい。追って「申請書用紙」をお送りいたします。申請書の提出締め切りは、5月15日(月)9:00AM（事務局宛 E-mail のみ有効。郵送不可）です。

なお、募集は、「早稲田社会学会研究助成取り扱い要領」の規定により、「助成の直前の年度まで継続して2年以上の会員歴がある」方が対象となります。また、研究助成を受けられた方には、学会大会一般報告(または学会誌投稿)により、その成果を報告していただくようお願いいたします。また、この趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付については事務局にお問い合わせ下さい。

6. 第44回早稲田社会学会研究例会のお知らせ

日時：2023年5月20日（土） 14:00－17:00

会場：オンライン開催

参加費：無料

申込: 2022年5月16日(月)12:00AMまでに、以下のGoogleフォームよりご登録ください。後日参加方法について連絡いたします。

<https://forms.gle/MaPpEaPE3JLatNjX6>

テーマ：「社会」の中の「人工知能（AI）」を考える——「人間以外」と向き合う視点の構築に向けて

主旨説明：

AIや関連する多様なデジタル技術をめぐる具体的な社会的現状や、それを対象とした、社会学を含む人文・社会科学分野における研究の動向について確認・検討する。すなわち、どのような立場から、どのようなアプローチがおこなわれているのか、どのようなテーマ・課題が浮かびあがってきているのか等々について、具体的な事例との関係にも触れながら検討する機会としたい。

（以下敬称略）

報告者：

片桐雅隆（千葉大学）「ポストヒューマン研究に社会学理論は何が出来るか—解釈的社会学からのアプローチの試み」

松村一志（成城大学）「AIはいかに知の秩序を変えるか：データベースの技術と専門家（仮）」

司会者：栗原亘（高千穂大学）

7. 入退会者のお知らせ

入退会者はありませんでした。

8. 学会費納入のお願い

今年度の学会費をお振り込みくださいますようお願い申し上げます。別途、郵便にて「郵便振替払込書」をお送り申し上げます。

年会費：一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、別途メールにてその旨をお知らせください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（socio-office@list.waseda.jp）までご連絡ください。

9. 事務局よりお願い

■事務局への連絡はできるだけメールでお願いいたします。

今般の状況下、事務局は通常通りの運営が困難となり、実務の多くをオンラインで行っております。学会事務局へのご連絡等は、できるだけ郵便でなくメールにてお願いいたします。郵便の場合、対応が大変遅れる可能性があります。いろいろとご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします。

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。特に2020年度以後、コロナ禍で、学会費の納入状況が大変低下しました。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上